

| 会社概要 |                   | 平成24年8月末日現在 |       |       |
|------|-------------------|-------------|-------|-------|
| 商号   | タキヒョー株式会社         |             |       |       |
| 創業   | 宝暦元年(1751年)5月     |             |       |       |
| 設立   | 大正元年(1912年)11月15日 |             |       |       |
| 資本金  | 36億2,225万円        |             |       |       |
| 役員   | 代表取締役会長           | 滝 茂夫        | 取締役   | 喜多 勇  |
|      | 代表取締役社長           | 滝 一夫        | 常勤監査役 | 加藤佳彦  |
|      | 常務取締役             | 小関敏彦        | 常勤監査役 | 佐野 修  |
|      | 常務取締役             | 武藤 篤        | 監査役   | 鷲野直久  |
|      | 常務取締役             | 岡本 智        | 監査役   | 末安 堅二 |
|      | 取締役               | 滝 祥夫        |       |       |
| 従業員数 | 626名〈男369名 女257名〉 |             |       |       |

| 株主メモ             |                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業年度             | 3月1日から翌年2月末日                                                                                                                                                                                                                    |
| 定時株主総会           | 毎年5月                                                                                                                                                                                                                            |
| 単元株式数            | 1,000株                                                                                                                                                                                                                          |
| 基準日              | 定時株主総会の議決権 2月末日／期末配当金 2月末日／中間配当金 8月末日                                                                                                                                                                                           |
| 株主名簿管理人・特別口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号<br>三井住友信託銀行株式会社                                                                                                                                                                                               |
| 同事務取扱場所          | 名古屋市中区栄三丁目15番33号<br>三井住友信託銀行株式会社 証券代行部                                                                                                                                                                                          |
| 公告の方法            | 電子公告の方法により行います。<br>ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。公告掲載URL <a href="http://www.takihyo.co.jp">http://www.takihyo.co.jp</a><br>※決算公告に代えて、貸借対照表、損益計算書はEDINET(金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム)にて開示しております。 |
| 証券コード            | 9982                                                                                                                                                                                                                            |
| 上場証券取引所          | 東京証券取引所市場第一部 名古屋証券取引所市場第一部                                                                                                                                                                                                      |
| 株主優待制度           | 2月末と8月末に1,000株以上保有の株主様に対して、オリジナル製品を贈呈させていただいております。今回8月末の株主優待の商品は、フレグランスキャンドル2個セット(詳しくはP12、13をご覧ください)です。また、2月末日現在で、1,000株以上保有の株主様の中から抽選で10名様に、50万円の旅行券を贈呈させていただきます。                                                              |

| 株式の諸手続きに関するお問い合わせ |                    | 株式のご所有状況によってお手続き窓口が異なります。 |
|-------------------|--------------------|---------------------------|
| 株式の所有状況           | お問い合わせ先            |                           |
| 証券会社等の口座をご利用の場合   | お取引の証券会社等          |                           |
| 「特別口座」に記録されている場合  | 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |                           |
|                   | ☎ 0120-782-031     |                           |

※支払期間経過後の配当金に関するお問い合わせは、三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせいたします。



最新のIR情報はHPにてご覧いただけます。  
<http://takihyo.co.jp/ir/index.html>

# Talk to Takihyo Report

First half ended February 28, 2013

## Takihyo

## グローバル化をめざし 挑戦し続ける企業へ

人をいかし、広い視野のもとで事業改革をする。タキヒヨーは着実に飛躍しています

代表取締役社長 滝一夫

### 「人への投資」で企業体質の強化を

株主の皆様には、日頃から当社の事業にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

社長に就任した昨年春に、中長期ビジョンとして「グローバルチャレンジ」をテーマに掲げ、社員とともに一丸となって事業の改革に努めてまいりました。従来の常識に固執することなく、自由闊達な発想で、大胆に挑戦する企業姿勢が、「グロー

バルチャレンジ」の言葉には込められています。260年を超える社歴を持つタキヒヨーを、

時代の変化に柔軟に対応できる体質に変えていくには、社員の誰もが意欲的に挑戦できる企業風土が不可欠です。

彼らの意見を吸い上げ、可能な限りバックアップをする。どれだけ人に投資できるかが、今後、国内だけでなく海外市場に挑むタキヒヨーにとって、「鍵」となるでしょう。

### さらなる飛躍をめざし

#### AKNYを発展的に終了

事業面では、今夏は猛暑が続いたこともあり、春夏物衣料は好調な売れ行きを示しました。

アパレル部門では単品ごとの開発力を発揮しながら、数年前からはコーディネート提案や上下セット販売など、パッケージ戦略を意欲的に進めています。点から線に、さらに面へ。その動きはアパレル部門だけでなく、

く、テキスタイル部門でも進展しています。

テキスタイル部門は従来の生地中心から製品納品へと主軸をシフトしつつあり、また在庫管

理の「見える化」を徹底したことで、前期は17年ぶりの黒字決算に転じることができました。

一方、リテール部門においては、2012年末を区切りに、

AKNY（アंकラインニューヨーク）ブランドとの提携を解消することを決定しました。

1975年から国内での販売を開始し、これまで37年間の長きにわたり、同ブランドとともに歩んでまいりました。

しかし、好不況に関わらず、企業にはつねに時代の流れを読み、次の一步を踏み出す決断が必要です。AKNYとの提携解消は、さらに世界へと事業を飛躍させていくためのステップと捉えています。2013年には、新たなブランドでの展開を開始します。

タキヒヨーの改革は、まだ始まったばかりです。

株主の皆様には、今後ともこれまでと変わらぬご愛顧をいただければと願ってやみません。





テキスタイル部門は黒字転換へ。  
営業方法、組織再編、業務の見直しにより、  
新たな成果が出始めています



# 枠を超えた 提案力で市場を変える

生地から洋服まで  
幅広く提案

アパレル部門、リテール（小売）部門とともに、タキヒヨーが掲げる事業スローガン「グローバルチャレンジ」を推進する中核が、テキスタイル部門です。

本来、テキスタイル事業は洋服に使われる糸や生地を企画提案し、アパレルメーカーなどの顧客に「素材」を提供するビジネス。タキヒヨーはこれまで、付加価値が高く、オリジナルに富んだ新素材をアパレル市場に発信してきました。

ところが、ここ数年で従来の業態を大きく変えようとしています。第4営業部テキスタイル営業部部長・小林元志は次のよ

オンリーワン商品に対する  
期待に応える

テキスタイル部門が手がける商品は、百貨店などで販売される高級ブランド向けがほとんど。同部門はこれまで、1人の営業が同じ顧客を長年にわたり担当することで、強い信頼関係を築いてきました。

そのため、顧客のニーズをより深い層まで理解でき、提案の幅も広いと言います。

「タキヒヨーの強みはものづくりの経験が豊富で、生地のバリエーションが多彩なこと。我々の提案力や開発力に対する顧客からの期待感は強く感じています。それに応えようと、企画段階から商品づくりに関わり、協業で最終商品まで仕上げていく

うに説明します。

「糸や生地に加えて、洋服、雑貨まで幅広いジャンルの新商品を提案する動きが今は主流となりつつあります。5年程前から取引先の要望にお応えして、婦人服の企画・デザイン業務を開始。それが軌道に乗り、現在では「素材」の提供にとどまらず、婦人服のデザインまでを含めた「製品」で提案するケースが増え、営業スタイルが大きく変化しています」

事業の柱は生地販売におきつつも、OEM（相手先ブランド委託生産）やODM（相手先ブランド企画生産）など製品（衣料）での受注・納品が急成長し、売り上げの3〜4割を占めるま

第4営業部  
テキスタイル営業部部長  
小林 元志



例が増えていきます。市場のニーズを先取りしたオリジナル性の高いオンリーワン素材・商品を提案できる点が評価されているようです」（小林部長）

テキスタイル部門は、これまでウール系素材での経験が多く、秋冬物衣料で実績を上げて

きました。

現在、とくに力を入れているのが、春夏物衣料の主流となる綿合繊系素材の分野です。セルロース繊維を使って質感を高めた複合材料や、柔らかな風合いに仕上げたデニムダンガリーなど新たな素材の提案を強化。

シャツやブラウス向けに使用される、テンセル・キュプラなどのセルロース繊維。麻複合などにすることで、ナチュラルな表情に。



また、軽さや上質感を狙ったサマーツイードなど、糸や組織で表情を加える素材づくりにも注力しています。

### 組織・業務面の改革による成果も

営業面での動きが活発化する一方で、組織面や業務面での改革も成果を上げています。

従来、同部門では営業担当者自らが生産準備の手配などの業務を兼務していました。

そこで、5年前に生産統括課を新設。営業、生産の役割を明確に分離し、生産統括課が生産関連の業務を一手に担う体制を取っています。

さらに、在庫素材の管理方法も一新しました。

「従来は部内のチームや担当者ごとに在庫品を個別に管理することが多く、仕入れ・調達、在庫管理にロスが多かった。在庫



今シーズンには「カラー」を重要視。インディゴブルーや、ロイヤルブルー、ライムグリーンなど、洗練されたリラックスムードを実現。

管理を一元化し、これを改善することで、より収益性を重視した体制整備が実現。在庫コストが削減できました」（小林部長）

### 新規顧客開拓 & アパレル部門との連携も視野に

素材から洋服へ。扱う商品の幅が増えたことでテキスタイル部門が担う守備範囲も広がってきました。

従来の市場調査では素材の産地（仕入れ先）の動きをチェックすることが主でしたが、現在は小売市場の売れ筋や現状を分析し、次のトレンドを読む役割も求められています。

「たとえば、他の商社が扱っていない先染めのチェック柄の人氣が出ると先読みして、提案し、

### キーワードは、進化した Hybrid Textured

天然素材とシンセティック（合成繊維）を様々な組み合わせたハイブリッド・テクスチャーは、微妙な色変化や陰影を生み、これまでになかった着心地と風合いを実現しています。



販売戦略を練る。商品の企画開発には、テキスタイル部門としてはリスクもありますが、逆に予測が当たったときの手応えがあり、ビジネスの醍醐味を感じています」（小林部長）

今後は、既存顧客への提案だけでなく、新規顧客の開拓にも力を入れていく考えです。

また、テキスタイル部門では百貨店向け商品の扱いが多いですが、量販店向けを主に扱うアパレル部門との連携にも期待がかけています。

収益体制を強化し、ビジネスの精度をこれまで以上に高めることで、さらなる販売拡大をめざしています。



## AKNYでの経験を糧に、新たなブランド展開を

AKNYは、高級感と上品さを合わせもつブランドで、一時は業績が低迷した時期もありましたが、2010年から商品構成を大胆に一新。原点に立ち返り、「働く女性のためのエレガントな装い」をコンセプトにブランドイメージを再構築した結果、業績は改善。今では主要都

2012年からは、欧州発の高級婦人服ブランドとライセンス提携することを予定。新ブランドでは日本市場だけでなく、将来は北米などの海外市場にも事業を拡大していく構想です。AKNYに続く、新ブランドの展開に、是非ご期待ください。

タキヒヨーは1973年、米国の婦人服ブランド、AKNY (ANNE KLEIN NEW YORK) に資本参加し、1975年から日本での販売を開始。以来37年間にわたって、商品開発・販売を続けてきましたが、2012年末をもって提携を解消することとなりました。

市にある大手百貨店に29店を出店しています。AKNYとの提携解消は、世界の市場へとタキヒヨーが挑戦するための布石であり、発展的な終了と位置づけています。同ブランドを通じて、商品づくり、小売戦略、ブランディングなど、多くを学んできましたが、



## 展示会を通じて積極的に情報発信

### 企画開発ブースは大盛況 高品質な素材開発に期待

テキスタイル部門のもっとも重要な情報発信の場が、展示会です。現在、同部門ではアパレルメーカーなどの取引先を対象に、年6回の展示会を開催しています。今年7月には、2013年春夏物の展示会を東京支店で実施。一日でアパレルメーカー20数社が来場し、活況を呈していました。

商品づくりの流れでは、展示会での商談で詳細を詰めた後、顧客が生地を決めて、タキヒヨーが製品（洋服）として納めるケースが増加する傾向にあります。

一本の糸、一枚の生地にも、生地の風合いや織り方、染色方法などさまざまなノウハウと幅広い知識が発揮されています。13年春夏物向けでは、天然素材と合繊との

複合素材、夏向けの機能性素材をはじめ多彩な素材を開発。新素材の一例では、「皮革を糸状に切つて、手織りした生地」「帆布に皮革の型押しを施した素材」「美濃和紙を生地に仕立てた素材」などに注目。婦人服市場の最前線で、新たな流行を創造するテキスタイル部門。メーカー担当者との活発な意見交換や商談によって、次のトレンドが生まれていきます。



本革かと思間違ふような表情が特徴の鞆。綿素材に型押しを施してあるため、非常に軽く実用的。

商品づくりでは、ママ世代に人気がある通販雑誌「赤すぐ」(リクルート発行、隔月刊)と協力し、毎号の紙面を通じて商品PRを続けてきました。また、

雑誌「赤すぐ」と協力。  
消費者の「声」をいかに

市場での認知度が少しずつ浸透してきた現在は、乳児サイズ仕様の「JILL MARIE CHIBI」プチフォーマルな装いの「JILL MARIE HIME」へと展開中です。

格よりも高めに設定。大型ショッピングモールや、ベビー服チェーン店などの店頭販売が中心ですが、ネットや雑誌を含む通販による売上も増えており、3割程度を占めています。



## ベビー服ブランドの可能性を探る 「JILL MARIE」

親子で楽しめる  
新ブランドをめざして

ベビー・キッズ部門の女児ベビー服で、市場の認知度が高まりつつあるのが、タキヒヨーの自社ブランド「JILL MARIE(ジル・メアリー)」です。

男児ベビー服に比べ、女児ベビー服の商品力が弱く、その強化をめざして、2008年に発足。購買層はギャル系ママを想定し、「親子が同じテイストでコーディネートできるお洒落なベビー服」を狙い、ブランド戦略を展開しています。

「ママのリアルな声」を反映するため、雑誌編集部と合同で年2回、読者へのヒアリングを実施。その場で出たさまざまな意見を参考にして、商品づくりにいかしています。



(上)「赤すぐ」2012年9月号掲載ページ。  
(右)「大きなリボンやレース使いが特徴です」と話す、デザイナー鈴木 麻子さん。



「エンドユーザーに直接話を聞き活用する動きは、ベビー服部門では初の試みです。雑誌媒体での取り組みと商品力で、今では根強いファン層を獲得。自社ブランドを育てていく手応えを感じています」(忠鉢課長)

発足して3年目の若い部隊ですが、消費者から販売先まで、さまざまな意見を採用入れながら、魅力ある商品を提供し、ファン層の拡大をめざします。

「一見トップスとボトムスが別々であるかのようなデザインは、「お腹が出ないで欲しい」というママからの要望で誕生。



「ベビー服には、まず『赤ちゃんが心地よく感じる肌触り』、着脱のしやすさ」が求められます。JILL MARIEでは、そうした品質に加え、デザイン性にも比重をおいた商品開発に取り組んできました」

商品企画担当として全体を統括する、忠鉢充夫は話します。価格帯は1900円台までがほとんどで、量販店の売れ筋価

第3営業部  
ベビー・キッズ1部  
313課課長  
忠鉢 充夫



## ほのかな光と香りで、癒しのひとときを

### 歴史を灯すキャンドル

今回お届けする株主優待品は、タキヒヨー特製のフレグ

ランスキャンドル（ホワイト・2個セット）です。

キャンドルと人との出会いは古く、その歴史は紀元前にまで

さかのぼります。イタリアでは遺跡の絵にキャンドル（燭台）が描かれ、すでに紀元前3世紀頃から使われていたことが知られています。とくに欧州ではガス灯が登場する19世紀まで、室内の照明用として広く利用されてきました。

不規則にゆらぐキャンドルの炎は、眺めるだけでリラックス効果があるとされています。そのため、欧州はもちろん現代の日本では、ヒーリングやインテリアとしての利用が多く、贈答用としても人気があります。



### 香りに包まれながら

### 自分だけの特別な時間を

今回のフレグランスキャンドルは、有名ブランドの香水や芳香剤などを製作している、イタリアの工場で作られている逸品。フィレンツェから車で4時間半程の場所に位置する工場に、当社社長・滝一夫自らが何度も出向き、仕上げたものです。

キャンドルの色合いや香りのイメージを伝えた後、手直しを重ね、完成までには数か月を要しました。

キャンドルの製造工程では芯を立たせたのちに蠟を注ぎます。そのため、最後まで綺麗に炎を灯し続けるには、中心にまっすぐ芯を立たせる必

イタリア郊外にあるテレんツイ社工場。長時間均一に燃焼するよう、蠟の色は白で統一。



要があります。

その熟練の業を身につけるには、何年もの時間と労力が必須。伝統ある手作りの技を継承して仕上げられた特別なキャンドルと、ものづくりにこだわるタキヒヨーの企業姿勢には、どこか相通じるものがあります。

ガラス製容器に入ったシンプ

ルなフレグランスキャンドルはどんな部屋にも馴染みます。

麻の成分を配合したやわらかな香りと、静かに揺らめく灯火が、秋が深まるこの季節、心を癒してくれるでしょう。

## 第102期 中間連結決算のご報告

### 中間連結損益計算書

[単位:百万円]

| 科目                       | 当中間期<br>2012年3月1日から<br>2012年8月31日 | 前中間期<br>2011年3月1日から<br>2011年8月31日 | 増減金額  |
|--------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-------|
| 売上高                      | 35,188                            | 31,717                            | 3,471 |
| 売上原価                     | 26,838                            | 25,041                            | 1,797 |
| 売上総利益                    | 8,350                             | 6,676                             | 1,674 |
| 返品調整引当金繰入額               | △5                                | △7                                | 2     |
| 差引売上総利益                  | 8,355                             | 6,683                             | 1,672 |
| 販売費及び一般管理費               | 6,967                             | 6,341                             | 626   |
| 営業利益                     | 1,387                             | 342                               | 1,045 |
| 営業外収益                    | 135                               | 136                               | △1    |
| 営業外費用                    | 102                               | 89                                | 13    |
| 経常利益                     | 1,421                             | 388                               | 1,033 |
| 特別利益                     | 38                                | 14                                | 24    |
| 特別損失                     | 146                               | 820                               | △674  |
| 税金等調整前中間期純利益又は同純損失(△)    | 1,312                             | △417                              | 1,729 |
| 法人税等                     | 564                               | △85                               | 649   |
| 少数株主損益調整前中間期純利益又は同純損失(△) | 747                               | △332                              | 1,079 |
| 中間期純利益又は同純損失(△)          | 747                               | △332                              | 1,079 |

※百万円以下は切り捨てています。

売上高は2期連続で増収。売上総利益率が前年同期比2.6%増加の23.7%となり、営業利益、経常利益及び純利益とも増益となりました。

### 中間連結キャッシュ・フロー計算書

[単位:百万円]

| 科目                  | 当中間期<br>2012年3月1日から<br>2012年8月31日 | 前中間期<br>2011年3月1日から<br>2011年8月31日 | 増減金額 |
|---------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー    | 1,926                             | 2,686                             | △759 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー    | △30                               | △1,016                            | 986  |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー    | △1,643                            | △939                              | △704 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額    | 2                                 | —                                 | 2    |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 254                               | 730                               | △475 |
| 現金及び現金同等物の期首残高      | 2,395                             | 1,751                             | 644  |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高    | 2,650                             | 2,481                             | 169  |

※百万円以下は切り捨てています。

### 中間連結貸借対照表

[単位:百万円]

| 科目           | 当中間期<br>2012年8月31日現在 | 前 期<br>2012年2月29日現在 | 増減金額   |
|--------------|----------------------|---------------------|--------|
| <b>資産の部</b>  |                      |                     |        |
| 流動資産         | 21,764               | 23,388              | △1,623 |
| 固定資産         | 27,051               | 27,561              | △510   |
| 有形固定資産       | 21,047               | 21,348              | △300   |
| 無形固定資産       | 496                  | 529                 | △32    |
| 投資その他の資産     | 5,507                | 5,684               | △177   |
| 資産合計         | 48,816               | 50,949              | △2,133 |
| <b>負債の部</b>  |                      |                     |        |
| 流動負債         | 13,165               | 14,659              | △1,493 |
| 固定負債         | 6,860                | 7,357               | △496   |
| 負債合計         | 20,025               | 22,016              | △1,990 |
| <b>純資産の部</b> |                      |                     |        |
| 株主資本         | 28,818               | 28,516              | 302    |
| 資本金          | 3,622                | 3,622               | —      |
| 資本剰余金        | 4,148                | 4,148               | —      |
| 利益剰余金        | 21,480               | 21,186              | 294    |
| 自己株式         | △433                 | △440                | 7      |
| その他の包括利益累計額  | △166                 | 305                 | △471   |
| その他有価証券評価差額金 | △26                  | 92                  | △118   |
| 繰延ヘッジ損益      | △69                  | 458                 | △527   |
| 土地再評価差額金     | 49                   | △120                | 170    |
| 為替換算調整勘定     | △120                 | △124                | 4      |
| 新株予約権        | 137                  | 112                 | 25     |
| 純資産合計        | 28,790               | 28,933              | △143   |
| 負債純資産合計      | 48,816               | 50,949              | △2,133 |

※百万円以下は切り捨てています。

**\*資産**／流動資産は、前連結会計年度末比1,623百万円減少し、21,764百万円となりました。これは主として現金及び預金が332百万円、繰延税金資産が143百万円増加しましたが、受取手形及び売掛金が1,283百万円、デリバティブ債権が770百万円減少したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末比510百万円減少し、27,051百万円となりました。これは主として、建物が純額で70百万円、土地が254百万円、投資有価証券が152百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末比2,133百万円減少し、48,816百万円となりました。

**\*負債**／負債は、前連結会計年度末比1,990百万円減少し、20,025百万円となりました。これは主として、支払手形及び買掛金が687百万円、借入金が1,362百万円減少したことによるものであります。

**\*純資産**／純資産は、前連結会計年度末比143百万円減少し、28,790百万円となりました。これは主として、利益剰余金が294百万円増加しましたが、その他包括利益累計額が471百万円減少したことによるものであります。